

1. 循環型社会の実現へ

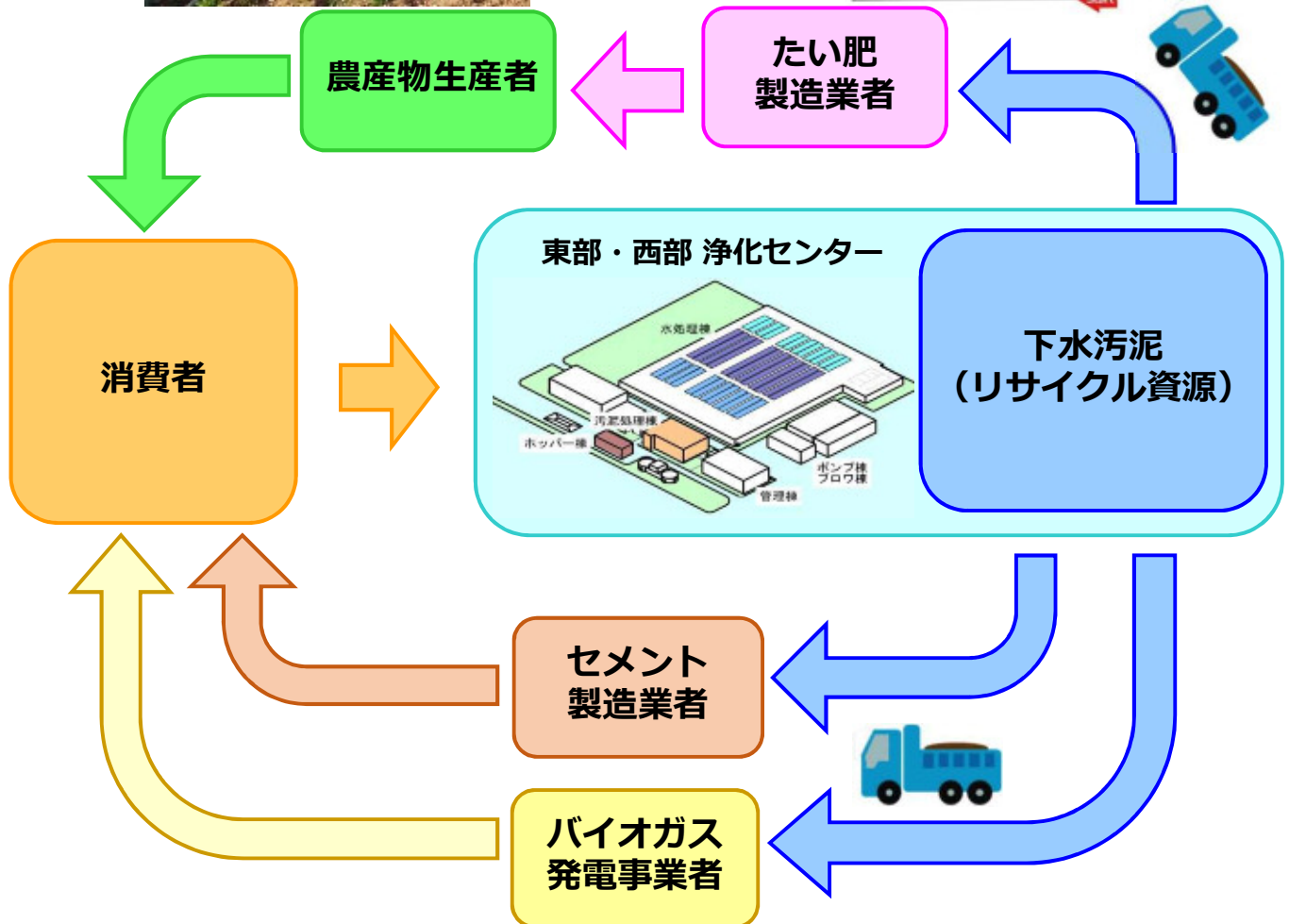
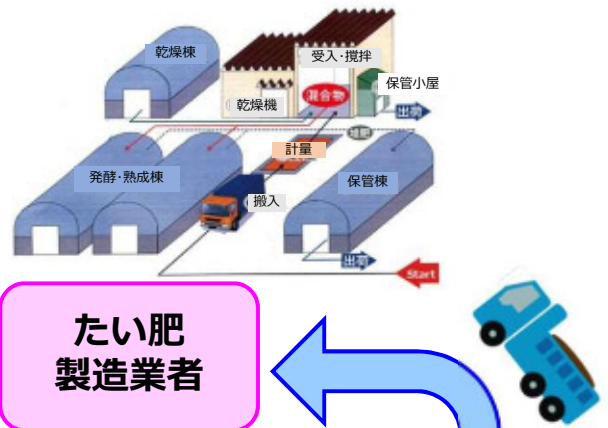
污水処理過程で発生する下水汚泥は、これまでセメント原料と埋立て処分してきましたが、これに加え、たい肥やバイオガス発電用燃料として利用し、脱炭素化・循環型社会に貢献します。2024年度はおよそ5,600トンの下水汚泥をたい肥化施設に搬出し、CO₂排出の抑制に努めました。

また、2025年2月には、西部浄化センターの老朽化した焼却設備を停止し、東部浄化センターと同様に、セメント原料化などの取組みを通じて、脱炭素化・循環型社会の実現を目指しています。

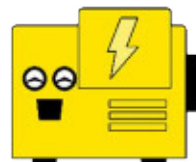
たい肥を利用した農業



たい肥化施設イメージ



バイオガス発電事業者のイメージ



発電機



メタンガス発酵